

尾道市民遺産に登録しませんか？

尾道市民遺産とは？

尾道にはたくさんの指定・登録文化財がありますが、その他にも尾道には固有の物語を形成する歴史や芸術上価値のあるモノがまだまだたくさん存在します。尾道市民遺産とは尾道固有の物語を知る上で必要な物や人々の生活の理解に重要な全ての歴史文化資源を未来に伝え活用していくための取組みです。

歴史文化資源



建造物・石造物・遺跡・町並み・美術工芸品・文書・民具
民俗芸能・食文化・伝統行事・方言・生物・風景・景観 など



※尾道の歴史や文化を基盤とする物語、テーマです。

登録のながれ



提案したいものを選び、
尾道市民遺産提案書を作成する必要があります。

文化振興課またはHPから
提案書を入手し作成します。

候補物件の調査や意見交換会を実施し審査します。

尾道市が尾道市民遺産リストに登録します。
市民の皆さんと協働で地域の活性化や学習などに活用していきます。

尾道市教育委員会文化振興課
尾道久保一丁目 15-1
0848-20-7425
www.city.onomichi.hiroshima.jp/

発行 平成 27 年 3 月



銀山街道と西国街道



尾道市教育委員会

西国街道

西国街道は、江戸時代の山陽道の別名です。京都から下関までの主要な幹線道路として江戸時代に整備され、その間には多くの宿場町が生まれました。参勤交代の大名や幕府役人の往来、書状や荷物の輸送などの重要な交通路であり、各地域の文化をつなぐ役割を果しました。

尾道においては西国街道は、福山藩領であった現在の高須町から瀬戸内海の港である防地港を越えて港町尾道に入り、尾道本通りを進んで、三軒家、日比崎、さらに吉和、福地町から三原へ抜けるルートが整備されました。街道沿いには常夜灯や蔵敷、辻堂などが今も残ります。



銀山 街道

銀山街道と尾道

いわみざんざん

銀山街道は、石見銀山の産出銀を尾道の港まで運ぶため、江戸幕府初代銀山奉行の大久保長安（1545～1613）によって開発・整備された道です。銀の貯蔵場所がある大森の代官所を出発して南へ下り、中国山地を越えて三次、甲山、御調を通り、尾道の本陣を終点とする。南北約130kmの道でした。

銀の輸送は年に一回、旧暦の10月下旬から11月初旬にかけて行われました。この輸送は牛馬約300頭、人足約400人をかけた大変大規模なものでした。隊列を組んだ輸送隊は3泊4日の行程でこの道を歩き、尾道まで銀を運んだのです。尾道に到着すると、銀は本陣笠岡屋に預けられたのちに船に積みこまれ、瀬戸内海を通って大阪の銀座に運ばれ、そこから京都の銀座に移され、銀貨に鋳造されていました。



長江の銀山街道沿いの道



尾道遺跡から出土した陶磁器

尾道は古くから港町として発展してきましたが、江戸時代には石見銀の積み出し港として、また北前船など各地から多くの船が集まる地として、ますます重要な港町となっていました。

また江戸時代には銀山街道に加えて西国街道も通るようになり、宿場町としても大いに栄えました。海上交通、陸上交通の両方において重要な拠点となった尾道にはたくさんの人、もの、文化が行き交いました。

尾道遺跡の発掘調査では商家や民家の跡地から国内外の陶磁器など江戸時代の交易品が数多く出土しており、さまざまな地域との交流があったことがうかがえます。

尾道にはたくさんの商人がいましたが、その中でも特に力をを持ち、さまざまな事業を行って財をなした商人を豪商といいます。尾道では横木家など、近世を通して数多くの豪商が生まれ活躍しました。

石見銀の引渡し場所であった笠岡屋（小川氏）は戦国時代から江戸時代初期にかけての尾道を代表する豪商で、尾道町の代官を務めるなど、町の中心的役割を担っていた一族です。笠岡屋の屋敷は西国街道沿いの本陣にも指定されており、現在の本通りの小川小路一帯を占める大邸宅であったといいます。



本陣笠岡屋の屋敷があった小川小路

宿場町尾道

江戸時代に入ると、江戸を起点とした五街道と、そこから枝分かれして各地へ通ずる脇街道が設定され、国内の交通網が整備されました。西国街道はその脇街道にあたり、京都から下関をつなぎ、外交の拠点である長崎へ至る道としてとくに重要視されていました。街道は道幅を統一して整備され、距離の目標となる一里塚や、方向を指示する道標などが各地に設けられました。

街道沿いには往来する人々が宿泊したり、書状や物資の輸送、人馬の继ぎ立てなどをを行うための宿駅が一定間隔ごとに設けられました。尾道はその宿駅の一つに指定され、したいに街道を中心とした宿場町として栄えるようになりました。西国街道は現在の尾道本通り商店街を通っており、ここが宿場町尾道の中心部でした。この道は西国街道として整備される以前の室町時代

中世から近世にかけての平らに整地された道路面が残っています。



街道の土層断面

の頃から道路として使用され続けていたことが発掘調査によってわかっています。

宿場町尾道には参勤交代の大名や幕府の役人など重要人物の宿泊する本陣・脇本陣や、町を取り締まる奉行所などが整えられ、街道沿いにはたくさんの中商家や民家が立ち並びました。それにぎやかな様子は安永3年（1774）の尾道の様子を描いた絵図からうかがうことができます。



尾道市重要文化財 紙本着色尾道絵屏風（浄土寺蔵）

藩境と番所

防地峠は、福山藩と芸州（広島）藩との藩境にあたり、江戸時代には番所が設けられました。番所は、街道を通行する人や荷物を監視し、厳重な取り締まりが行われた場所です。現在は、福山藩番所の建物が残っており、江戸時代の番所として貴重な建物です。他に藩境の石碑も残存しています。



福山藩番所の建物



藩境碑（広島藩）